



大阪医学統計学セミナー 第21回

Osaka Biostatistics Seminar

7月24日 (水)
18:00~20:00



場所：
医学系研究科基礎研究棟L階
医学統計学研究室

ピレスパ錠投与後の経時推移情報を用いて肺活量の変化を予測するモデル構築とその性能評価

講演者：坂口 弘樹 (塩野義製薬株式会社)

概要：

昨今、統計モデルを用いた個別別の治療効果・病態予測に関する取り組みがしばしば行われている (Seibold et al., 2018). 精度の高い予測モデルに基づき、患者さん別の治療効果を予測し、提示することができれば、治療方針の意思決定等の個々の患者さんに対応した治療へ役立てられると共に、治療効果の見通しが立てられることにより患者さん自身が安心・納得して治療を継続できることが期待される。本発表では、ピレスパ錠の国内第3相臨床試験データを用いて、背景情報と投与開始後に経時的に測定される肺活量とバイオマーカーの観測値を用いて投与後24週の肺活量の変化量を予測するために、投与開始後の経時測定データを考慮することが可能なモデルの一つである関数データ回帰の統計手法を用いた予測モデル構築を紹介する。併せて、ブートストラップ法を利用したモデルの予測性能評価の結果を報告する。

お問い合わせ：大阪大学大学院医学系研究科 医学統計学講座
E-Mail : office@biostat.med.osaka-u.ac.jp TEL : 06-6879-3301